

大久保地域にゆかりのある3人の「文学者」 (小泉八雲・島崎藤村・鈴木三重吉)

大久保地域にゆかりのある文学者には、坪内逍遙・小泉八雲・島崎藤村・国木田独歩・鈴木三重吉などがおりますが、ここでは3名の文学者を取り上げてみました。

小泉八雲 [1850~1904年]

【略伝】

- ギリシアのレフカダ生まれ。小説家・随筆家
- 1890年来日。大久保には1902~1904年に居住 (大久保村大字西大久保265)
- 代表作 「怪談」・「骨董」など

肖像写真



(出典)国立国会図書館
デジタルコレクション

終焉の地の碑 (大久保小学校の正門付近)



ハイジア



縮緬本
(おばあさん)



縮緬本
(幽霊)

縮緬本(本文)



明治・大正時代、海外の輸出向けに作成されました。



縮緬本
(裏表紙)

(所蔵)
稲荷鬼王神社

島崎藤村 [1872~1943年]

【略伝】

- 長野県生まれ。小説家・詩人
- 大久保には1905~1906年に居住 (大久保村大字西大久保405)
- 代表作 「破戒」・「夜明け前」など

肖像写真



(出典)国立国会図書館
デジタルコレクション

旧居跡の碑(稲荷鬼王神社のそば)



ハイジア

若菜集等



(提供)稲荷鬼王神社



関係地図
ゼンリン地図より作成

鈴木三重吉 [1882~1936年]

【略伝】

- 広島県生まれ。童話作家
- 大久保には1929~1936年に居住 (大久保村大字西大久保461)
- 童話雑誌「赤い鳥」を創刊。「蜘蛛の糸」(芥川龍之介)、「一房の葡萄」(有島武郎)などが有名

肖像写真



(出典)国立国会図書館
デジタルコレクション

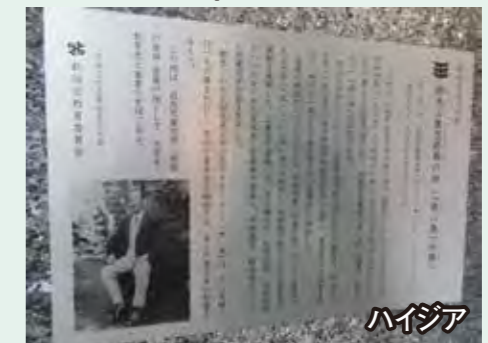
赤い鳥



(提供)稲荷鬼王神社

清水良雄が書いた表紙絵が評判を呼びました。

終焉の地の説明板(チェックメイトビルの前)



ハイジア